

One Young World グローバルサミット 2025 への生徒派遣の概要について

1 開催日程・開催地

令和7年11月3日（月）～6日（木）
ドイツ ミュンヘン



2 派遣生徒

県立岡山一宮高等学校 3年 片山 桂汰

3 大会の様子

- 世界190か国以上から2千人以上の若手リーダー（18歳～32歳）が参加。外国人参加者はほとんどが社会人であり、高校生の参加はまれである。
- 参加者がそれぞれの地域の民族衣装で参加したオープニングセレモニーでは、ヨルダンのラーニア・アル=アブドゥッラー王妃などのスピーチがあった。
- 期間中、メイン会場のステージでは、若手リーダーたちによるスピーチが行われ、並行して別会場でワークショップが開催された。
- パートナー企業の取組についての出展スペースもあり、ディナータイムなどを利用してネットワーキング（異業種交流）が盛んに行われていた。
- クロージングセレモニーでは、次期開催地のケープタウンに開催バトンが引き継がれた。



4 派遣生徒の活動、感想等

- メイン会場等でスピーチやプレゼンを聞き、見聞を広めるとともに、グローバルリーダーシップについてのワークショップに参加した。

他の参加者と互いの経験や考えを共有する中で派遣生徒は自身の生徒会活動や県教委の事業での経験を紹介し、リーダーは強さだけでなく、優しさや共感が大切であることを伝えた。



- 様々な交流の機会を通して、他の参加者に「おかやま高校生” Well-being” 宣言」を紹介し、他の参加者に、それぞれが考える Well-being について尋ねた。

本県の高校生の取組について発信することができ、高い関心を示す参加者もあった。派遣生徒は、ある参加者の「夢に向かって自分が努力していることが Well-being だ」という言葉に非常に感銘を受けた。

- 大会の最終日、各自でリボンに「サミット後、何をしたいか、何ができるか」を書き、全員のリボンを一つに繋げて輪にした。

派遣生徒は、「全ての子どもたちが質の高い教育を受けることができる世界を作りたい」と書いて繋いだ。このサミットで多くの人に出会い、活動や考え方から刺激を受けたが、高校生だから、自分だから、できることもあるので、今後もチャレンジを続けたいという思いを強くした。



5 成果普及について

派遣生徒はOYWアンバサダーとして、今後、本県が実施するグローバル人材育成のためのシンポジウムや各種説明会等において、自らの経験を中高生に語るなどして、普及活動に積極的に携わる。

6 その他

- 派遣生徒は、出発前の10月23日（木）、岡山大学で行われた第14回グローバルRCE会議のシンポジウムに登壇し、世界から集ったESD関係者を前に、英語で自らの「夢」と、「おかやま高校生 “Well-being” 宣言」について発信した。



- 期間中の派遣生徒の活動の様子の詳細は、今後、次世代おかやま「夢育」WEBサイトに掲載予定。

<https://sites.google.com/gse.okayama-c.ed.jp/koukou-yumeiku/>

